

お知らせ

記者発表資料 | 平成28年 7月28日

- 同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ
広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ
中国地方建設記者クラブ

平成28年度 中国地方整備局入札監視委員会 総会及び第一部会第1回定例会議の議事概要について

中国地方整備局入札監視委員は平成28年度総会及び第一部会の第1回定例会議を平成28年7月1日（金）に開催しました。

総会では委員長の選出、委員の所属部会の指名等を行い、第一部会定例会議では平成28年1月1日から平成28年3月31日までの間に発注した「工事」「建設コンサルタント業務等」「役務の提供等及び物品の製造等」の中から抽出した10件の事案について、入札・契約の過程並びに契約内容について審議を行いました。

総会及び第一部会定例会議の議事概要については別紙のとおりです。

<問い合わせ先>

中国地方整備局入札監視委員会事務局

(第一部会) 082-221-9231 (代表)

主任監査官	あかぎ まもる 赤木 護	(内線2114)
総務部 契約管理官	きのした かずたか 木野下 和孝	(内線2222)
企画部 技術開発調整官	なかがわ てつし 中川 哲志	(内線3120)

(第二部会) 082-511-3900 (代表)

総務部 総括調整官	くわやまよしひさ 桑山 佳久	(内線103)
総務部 契約管理官	さの ともり 佐野 友紀	(内線130)
品質確保室長	たにがわ てつや 谷川 哲也	(内線250)

【広報担当窓口】

広報広聴対策官	さかや まさゆき 坂屋 政之	(内線2117)
企画部 環境調整官	まつもと はるお 松本 治男	(内線3114)

総 会

1. 開催日時及び場所

平成28年7月1日(金) 13時30分～13時45分
広島合同庁舎第4号館 2階 共用第11会議室

2. 議事概要

- ・委員長の選出及び委員長代理の指名
- ・委員の所属部会の指名

「3. 委員名簿」のとおり、委員長、委員長代理の選任と、各委員の所属部会の指名がされました。

3. 委員名簿

委員長 (第一部会)	<small>かわい けんじ</small> 河合 研 至	広島大学大学院工学研究院教授
委員長代理 (第二部会)	<small>たかみ かつひこ</small> 高海 克 彦	山口大学大学院理工学研究科准教授
委員 (第一部会)	<small>ちか もり ひで たか</small> 近森 秀 高	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
委員 (第一部会)	<small>ひらの みのる</small> 平野 実	県立広島大学経営情報学部教授
委員 (第一部会)	<small>ふくだ かずえ</small> 福田 和 恵	公認会計士
委員 (第一部会)	<small>みずなか せいぞう</small> 水 中 誠 三	弁護士
委員 (第二部会)	<small>の だ かず ひろ</small> 野 田 和 裕	広島大学大学院法務研究科教授
委員 (第二部会)	<small>さ く ま つよし</small> 佐 久 間 剛	中国経済連合会理事

- ※ 第一部会は港湾空港関係を除く事項について審議
- ※ 第二部会は港湾空港関係の事項について審議

中国地方整備局入札監視委員会（第一部会）審議概要

開催日時及び場所	平成28年 7月 1日（金） 14時00分～17時00分 中国地方整備局 建政部 3階会議室	
委員	部会長 河合 研至（大学院教授） 部会長代理 平野 実（大学教授） 委員 近森 秀高（大学院教授） 委員 福田 和恵（公認会計士）	
審議対象期間	平成28年1月1日 ～ 平成28年3月31日	
抽出案件	総件数 10件	（備考） 審議対象工事等の案件については、 別紙1のとおり
○工事		
一般競争入札方式 （WTO 対象）	1件	
一般競争入札方式 （WTO 対象外）	5件	
○建設コンサルタント業務等		
簡易公募型競争入札方式	1件	
通常指名競争入札方式	1件	
簡易公募型プロポーザル方式	1件	
○役務の提供等及び物品の製造等		
一般競争入札方式	1件	
	意見・質問	説明・回答
委員からの意見・質問、 それに対する回答	別紙2のとおり	別紙2のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

抽出事案一覧

【工事】

(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事)

工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
鳥取西道路青谷高架橋第1鋼上部工事	鋼橋上部工事	18	18	平成28年1月4日	JFEエンジニアリング(株)

(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの)

工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
広島西部山系大町5号砂防堰堤工事	一般土木工事	6	3	平成28年1月19日	(株)楠建
玉島維持管内舗装修繕工事	アスファルト舗装工事	6	6	平成28年3月15日	日本道路(株)
鳥取運輸支局建築改修外1件工事	建築工事	4	4	平成28年3月4日	本庄建設(株)
吉井川樋門ゲート設備整備工事	機械設備工事	2	2	平成28年3月30日	東洋プラント(株)
弥栄ダム放流警報監視局更新工事	通信設備工事	2	2	平成28年3月30日	(株)ケーネス

【建設コンサルタント業務等】

(簡易公募型競争入札方式)

業務名	業種区分	手続への参加資格及び 業務実施上の条件を満たす 参加表明書の提出者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
広島東部道路附属物点検業務	土木関係建設コンサルタント業務	16	10	平成28年2月5日	(株)ウエスコ

(通常指名競争入札方式)

業務名	業種区分	指名業者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
国道54号三次大橋外耐震補強設計業務	土木関係建設コンサルタント業務	11	11	平成28年1月13日	八千代エンジニアリング(株)

(簡易公募型プロポーザル方式)

業務名	業種区分	手続への参加資格及び 業務実施上の条件を満たす 参加表明書の提出者数	技術提案書の 提出者数	契約締結日	契約の相手方
土師ダム下流環境改善策検討業務	土木関係建設コンサルタント業務	7	1	平成28年2月22日	いであ(株)

【役務の提供等及び物品の製造等】

(一般競争入札方式)

業務名	業務分類	競争参加資格を 確認した者の数	入札者数	契約締結日	契約の相手方
H28-31国営備北丘陵公園運営維持管理業務	役務[その他]	1	1	平成28年2月12日	株式会社グリーンウインズさとやま

意見・質問	説明、回答
1. 第一部会部会長及び部会長代理の選出	
部会開催にあたり、第一部会長に河合委員を、部会長代理に平野委員を選任しました。	
2. 報告及び審議	
(1) 入札・契約手続きの運用状況等の報告	
<p>1) 入札方式別発注工事 2) 入札方式別発注業務 3) 入札方式別発注役務の提供等及び物品の製造等 4) 指名停止等の運用状況 5) 談合情報等への対応状況 6) 再度入札における一位不働状況 7) 工事種別毎の低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況</p> <p>Q 1. 指名停止の対象となった業者に、悪質な事由があったとして、基本となる指名停止期間に加算を行ったとの事だが、加算を行う際の基準はあるのか。</p>	<p>A 1. 指名停止期間の加算については、国土交通省の運用基準が定められており、この基準に基づき統一的に行っている。</p>
(2) 抽出事案審議	
1) 鳥取西道路青谷高架橋第1鋼上部工事	
<p>Q 1. 5者が調査基準価格を下回り、施工体制に関する資料提出がなされず、入札書無効となったとの事だが、5者は多いのではないか。また、調査基準価格とどのくらい金額差があったのか。</p> <p>Q 2. 技術提案の評価が満点の者が多く(12者/18者)、実質的に価格競争になってしまっているのではないか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 昨年度に本工事と同様な鋼橋上部工事をほかに12件発注しているが、無効となった業者数については、それらと比較しても特別多いという事はない。また金額差については、差の小さかった者が7万円、差の大きかった者が約6千万円程度であった。</p> <p>A 2. 先程述べたように、昨年度に多くの鋼橋上部工事を発注し、本工事の参加業者の多くは複数工事に参加しており、技術提案を重ねる中で習熟した業者が多く、満点が増えたものと考えている。 今年度については、3段階で行っていた技術提案の評価を4段階評価に変更し、差を設けるようにしている。</p>
2) 広島西部山系大町5号砂防堰堤工事	
<p>Q 1. 応札が3者と少ないが、考えられる要因はあるか。</p>	<p>A 1. 昨年度、本工事以外にも施工能力評価型により砂防堰堤工事を10件発注しているが、それらと比較しても、入札参加者数に大きな違いはない。また通常の堰堤工事に加えて、広島土砂災害対応</p>

<p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>でも堰堤工事を多く発注していることから、技術者の確保等の関係で入札参加者数が少なくなったと思われる。</p>
<p>3) 玉島維持管内舗装修繕工事</p> <p>Q 1. 総合評価項目の「同種工事の施工実績」を排水性アスファルト舗装面積5,400㎡以上で区分しているのはなぜか。</p> <p>Q 2. 本工事の舗装は「密粒度As改質Ⅱ型」と「排水性舗装」の2種類があるようだが、「排水性舗装」の施工実績を求めている理由は。</p> <p>Q 3. 総合評価項目の「地元一次下請の活用率」とはどのようなものか。</p> <p>Q 4. 総合評価項目の「舗装施工管理技術者の資格の有無」において、一級保有の場合にも、配点が1点では低いのではないか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 本工事で施工する排水性アスファルト舗装の面積の合計が5,400㎡であるため、同様の実績で配点を区分している。</p> <p>A 2. 「密粒度As改質Ⅱ型」は通常の舗装であり、「排水性舗装」は通常の舗装と比べ、施工における技術的難易度が高いことによるもの。</p> <p>A 3. 入札参加者の一次下請予定金額のうち、本件で言えば、岡山県内に本店所在地のある地元業者と契約を予定している金額の割合の高さを評価するもの。</p> <p>A 4. 「舗装施工管理技術者」は国家資格ではなく、民間資格であるため、入札参加に必ず必要な資格ではなく、保有していれば品質の向上が見込まれる資格として評価しており、配点は適正と考えている。</p>
<p>4) 鳥取運輸支局建築改修外1件工事</p> <p>Q 1. 入札参加者間で入札金額に乖離が見受けられるが、どういった要因からか。</p> <p>Q 2. 他省庁で受注した工事を施工実績として使用できる発注機関・発注工事を示した「工事成績相互利用適用対象工事」の表で、各発注機関で対象工事の開始年月日が異なるのはなぜか。</p> <p>Q 3. 総合評価項目の「同種工事の施工実績」で外壁改修の施工数量を200㎡以上で区分している理由は。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 本工事の積算は、公表されている単価・歩掛によるものは3割程度で、大部分がメーカーや専門業者からの見積を参考に実勢価格として算出したものであるため、入札参加者によって取引先等も異なることから、入札金額に差が生じているものと考えている。</p> <p>A 2. 工事成績の相互利用については、各発注機関に呼びかけ、平成19年4月から開始しているが、発注機関によって参加開始年月日が異なるため。</p> <p>A 3. 本工事は昨年度中に一度入札手続を行ったが、参加者が無かったため、再手続したものである。当初は実際に施工する外壁改修面積約700㎡の半分である350㎡を区分としていたが、再手続の際には、より多くの入札参加を促すため参加要件を緩和し、200㎡としたもの。</p>
<p>5) 吉井川樋門ゲート設備整備工事</p> <p>Q 1. 参加予定可能者数32者に対して、応札が2者と少ないが、考えられる要因は。</p>	<p>A 1. 本工事は既設樋門の機器取替が主な工事内容となっており、施工箇所が点在し、各箇所の規模も小さいため、参加者が少ないと思われる。</p>

<p>Q 2. 落札率が高いが（96.5%）、積算はどのように行っているのか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 2. 割合いで言うと、公表されている標準歩掛によるものが1%、機器費について特別調査と呼ばれる市場調査を行ったものが70%、参加業者からの見積によるものが29%となっている。</p>
<p>6) 弥栄ダム放流警報監視局更新工事</p> <p>Q 1. 応札2者のうち、調査基準価格を下回った者は施工体制に関する資料提出がなく、入札無効となっているが、この者の方が、企業・配置予定技術者ともに同種工事の施工実績の評価が高く、かつ安価である。本工事のような通信設備の更新では実績をもっと重視しても良いのではないか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 現行の低入価格調査制度に基づき、手続を行ったものであり、落札業者についても通信設備の保守点検を行っている業者が落札しており、問題はないと考えている。</p> <p>ただ低入価格調査制度について、改善の余地はあると認識しているので、ご指摘の内容については今後の参考とさせていただきたい。</p>
<p>7) 広島東部道路附属物点検業務</p> <p>Q 1. 点検対象のうち「道路遮断機」とはどのような物で、どこを点検しているのか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 一定量以上の雨が降った際に、土砂災害等の危険性のある道路区間を事前に通行止めしており、その区間の両端に設置された遮断機の事である。点検は柱部分、部材等について行っている。</p>
<p>8) 国道54号三次大橋外耐震補強設計業務</p> <p>Q 1. 指名業者選定の段階で、評価結果が同じ時はどのようにして順位を付けているのか。</p> <p>Q 2. 応札11者のうち、調査基準価格と同額の入札者が3者もあるが、考えられる要因は。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 評価結果が同じ者は、同順位とするが、本資料は選定11者を示すため、便宜上、順位を付したものの。</p> <p>A 2. 本業務の積算は標準歩掛や見積を基に作成した歩掛によるが、これらは公表されているため、調査基準価格を類推することは十分可能である。</p>
<p>9) 土師ダム下流環境改善策検討業務</p> <p>特に質疑なし。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する</p>	
<p>10) H28-31 国営備北丘陵公園運営維持管理業務</p> <p>Q 1. 落札率がかなり高いが、考えられる要因はあるか。</p> <p>Q 2. 前回の落札業者はどこか。</p>	<p>A 1. 本業務の積算は標準歩掛や見積を基に作成した歩掛によるが、これらは公表されているため、予定価格に近い価格を類推することは十分可能である。</p> <p>A 2. 今回の落札業者と同じである。</p>

<p>Q 3. 契約期間が平成32年1月31日までなのはなぜか。</p>	<p>A 3. 本業務の内容は国営公園の維持管理を主とするため、本業務完了後に継続して発注する次期業務において新規参加の者が4月に契約し、すぐに繁忙期であるゴールデンウィークを迎えると、準備期間が短く、円滑な業務実施が難しいと判断した。また、その為に入札参加者が少なくならないよう、次期業務の開始を2月からとし、今回業務の契約期間を1月31日とした。</p>
<p>Q 4. 本業務は入札参加者が1者のみであるが、競争性を確保するための対策は何か考えているのか。</p>	<p>A 4. 本業務の1者応札については、問題意識はもっている。 過去における全国の国営公園運営維持管理業務の入札状況をみると、他地整では複数者の参加があるところもあり、参加事業者の形態も様々である。 入札手続は全国統一的に行っているので、本省や全国の地整と連携しながら、次回4年後の発注の際には、より多くの民間事業者の参加が促進されるよう要件の緩和など、順次見直しを図ってきたい。</p>
<p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	

<p>(3) 再苦情処理の報告</p> <p>該当事案なし</p>	
<p>平成28年度 入札監視委員会</p> <p>第2回定例会議（第一部会）</p>	<p>平成28年9月27日（火） 14時00分～</p> <p>中国地方整備局 建政部 3階会議室</p> <p>抽出委員 水中委員</p>